

陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究 (②セ03-09-1/2)

目 的

近年発見が相次いでいる中国陝西省の墳墓壁画は、建設工事など壁画保護を優先できない環境にあるため、そのほとんどが剥ぎ取り、考古研究所等への移動という対応が取られているが、発見直後の環境の変化に始まり、剥ぎ取り、移動のための処理によって破損や変色・褪色が発生している。貴重な壁画に関する情報をできる限り保存し、壁画の状態変化が最も少ない現場での調査実施と記録保存方法を構築することを目的として、日中で共同研究を行う。

成 果

今年度は、まず陝西省考古研究院との共同研究体制の構築を行い、次いで同研究院の指導者、保存修復部門担当者に我々の調査方法の原理を理解してもらうことを目的として、作業を行った。

1) 合意書の作成、交換

共同研究開始の前提として、東京文化財研究所と陝西省考古研究院との間で合意書を作成し、両研究所所長の署名をもって交換した。

2) 調査作業

8月31日から9月4日までの5日間、陝西省考古研究院壁画収蔵庫において実施した。唐の節愍太子墓から出土した壁画一面と後漢の邠王墓から出土した壁画一面を対象作品として選定し、①考古学的・美術史的図像研究、②記録撮影を含む各種光学的調査、③状態に関する肉眼調査、④必要に応じた（許容される範囲での）分析研究を行った。中国では、外国人が文化財の写真撮影を行うことに関して厳格な制限規定があり、発掘現場での撮影についてはこの問題を解決する必要があることと、我々の調査方法を早期に中国側に移植することが必要になるため、今回の調査に際しては、現在日中共同研究を推進中の敦煌研究院から2名の人員の派遣を仰ぎ、中国人の撮影による調査を実現した。

(3) 報告研討会の開催

調査最終日9月4日の午後、調査メンバーおよび陝西省考古研究院の研究者が出席して（11名）、壁画を前にした報告研討会を開催した。日本側担当者から調査報告を行い、参加者全員での討論を行った。

(4) 来年度の調査について

12月12日から16日の日程で、陝西省考古研究院渭南基地へ出張し、壁画修復室を視察して中国における剥ぎ取り後の壁画の状態変化について情報を得るとともに、発掘現場での調査作業について討論を行った。

研究組織

○岡田健（文化遺産国際協力センター）、高林弘実（客員研究員）